

東洋美術に多く描かれている白黒赤の清楚な鶴

タンチョウ

指定区分	国指定天然記念物
読みかた	たんちょう
所在地	その他(地域を定めず指定)
指定年月日	昭和27年3月29日
解説	「タンチョウヅル(丹頂鶴)」とも呼ばれている。明治時代の乱獲で一時絶滅したと考えられていたが、大正時代に釧路でわずか十数羽が生存しているところを発見された。昭和27年に人工給餌が成功し、手厚い保護も受け、増加してきている。赤と黒と白の色彩を持つ美しい鳥で、頭頂部に赤い丹皮膚が露出しており、「タンチョウ」という名前の由来となっている。
アクセス方法	
公開状況	岡山後楽園(岡山市)問:086-272-1148 / 岡山県自然保護センター(和気町)問:0869-88-1190 / 赤坂タンチョウセンター(赤磐市)問:086-957-4678 / きびじつるの里(総社市)問:0866-90-2431 / 蒜山タンチョウの里(真庭市)問:0867-44-1263
設備	
備考	「岡山県自然保護センター」及び「きびじつるの里」ではタンチョウの見学の他、展示パネルや写真などで自然環境学習の場として活用されています。

きつずページ

していくぶん (指定区分)	国指定天然記念物
ぶんかざいめい (文化財名)	タンチョウ
よみかた	たんちょう
しょざいち (所在地)	その他(地域を定めず指定)
していつひ (指定した日)	昭和27年3月29日
せつめい	タンチョウヅルともよばれています。明治時代(めいじじだい)にむやみに捕(つか)まえられて、絶滅(ぜつめつ)したと思われていました。しかし、大正時代(たいしょうじだい)にわずか十羽(わ)あまりが生存(せいぞん)しているところを発見(はっけん)されました。昭和時代(しょうわじだい)には人工でのエサやりもできるようになり、大切に保護(ほご)されて、数も増(ふ)えています。